

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2010年9月1日

84号



武藤君（左側）と現地で活躍する青年達

異文化社会にて奉仕活動に励む青年達

レダで三か月間、奉仕活動をした武藤君の感想にしてくださいました。

『まずはじめに神様とレダで歩んでいる皆様に心からの感謝を申し上げます。とても暖かく歓迎して下さり親切に感じています。』

今後の私の人生に計り知れない教訓を与えてくれたと感謝された先輩方の努力と献身に私自身、心を深く動かされました。レダにおける景色の素晴しさ、そして蚊と戦うことでも含む開拓の生活は素晴らしい経験で、3ヶ月間ですべてが喜びであり、感謝の経験でした。植物に水を注ぐ作業は私自身の心に静けさと、平安を与えてくれました。木々や野菜がゆっくりと育つ事を観察することは心に暖かさを育ててくれました。

また、動物達に餌を与え、乗馬の経験もとてもエキサイティングな経験でした。泥にはまつたトラックを引き上げる作業、また荒地を数キロ、歩くことも素晴らしい経験でした。

ほとんどの瞬間をカメラで収めましたが、それ以上に私の心情にこの期間の全ての事を刻みつけました。この期間の間、中田先生の変わらざる努力と献身、そしてすばやく、正確な決断には感動しました。飯野先生の経験豊かな知恵と夫人の若く、未経験な私達に対する母のような暖かさに平安を得ました。また、レダで働く全般的な先輩の方々の謙遜で、献身的な働きに接し、今後の私の生き方に良き指針となりました。

一緒に働いた同じ年代の古市さん、平野さん、この期間、ともに笑い、経験した数々の事に感謝します。今後も神の祝福があり、再び会える日を楽しみにしています。最後にアスンションで活躍する佐野先生、この一週間、アスンションでの生活を素晴らしいものにしてくれ、感謝します。

再び、レダに来ることが出来る日を願いながら、今度レダに来る機会にはアメリカの友人と共に奉仕に来たいと思います。（八月十日。アスンションにて）

レダは皆様の来訪を待っています

飛行機の安全な発着のため、滑走路が整備されました。



今年の始めに会員の皆様に今後のレダの開拓の進展のお願いしました。多くの方の支援を頂き、無事、レダ滑走路の整備が七月二十七日に開始し、一週間ほどで完成しました。上記の写真にあるようにレダからの報告では『正に陸の艦隊の如く現れた姿は壮观でした。早速現場を視察しながら簡単に打ち合わせをなし、仕事に入りました。雨が降れば動けなくなります。見る者が一齊に目を見張る事ぶりです。土を掘り運ぶスラクター一台、計五台が一パ一両を連結したトクターが四台、先駆けて固体を耕す鋤のついたトルクター一台、計五台がエンジン音を響かせて休息なく昼夜運転手二組で交替しながら棲まじい勢いでの空貫工事です。夜間は、トルクター自身がヘッドライトだけでなく後ろが見えるよう照明を煌々と点けて作業し続けるのです。とその時の興奮を伝えてくれています。

滑走路が整備され、今後、多少の雨が降つても水は側面に流れ、雨水を滑走路上にためることはなく、み通つた滑走路の乾燥も早くありました。レダには最近、多く問答があり、今後もレダの開拓に持つ多方面の人の訪問が予想されますので時を得た整備です、協力してくださった会員の方には心から感謝しています。早速、八月二十三日にはアメリカからエコツアー客も予定されています。本七日にレダに到着します。その後、十月初旬には日本からエコツアーチームの十三名と長期ボランティアの三人が八月二十日には

関心をなせる仕事ぶりです。土を掘り運ぶスラクター一台、計五台がエンジン音を響かせて休息なく昼夜運転手二組で交替しながら棲まじい勢いでの空貫工事です。夜間は、トルクター自身がヘッドライトだけでなく後ろが見えるよう照明を煌々と点けて作業し続けるのです。とその時の興奮を伝えてくれています。

滑走路が整備され、今後、多少の雨が降つても水は側面に流れ、雨水を滑走路上にためることはなく、み通つた滑走路の乾燥も早くありました。レダには最近、多く問答があり、今後もレダの開拓に持つ多方面の人の訪問が予想されますので時を得た整備です、協力してくださった会員の方には心から感謝しています。早速、八月二十三日にはアメリカからエコツアーチームの十三名と長期ボランティアの三人が八月二十日には



エスペランサ村学校のペニキ塗り奉仕

上山先生の指導の下、レダに滞在する青年達が中心となり、六年前に建設したエスペランサ村の学校の修復作業、特にペニキの剥がれた壁のペニキ塗り、入口の扉と窓枠のニスを塗りなおす作業を行いました。

新装された学校に村人から歓声が上がりました。

会員の皆様の支援でエスペランサ村の教育環境を継続的に改善でき、子供達の勉強に対する意欲が高まっています。



日本の皆様の支援を効果的に現地の発展に使われるようレダのスタッフは近隣の村を



学校の先生方に感謝されて握手する上山氏と作業に参加していたメンバー達。（蘇った校舎の前で）
今回の作業期間：7月12日～20日（8日）
作業人数：労働者4人+4人（上山、平野、武藤、古市）
計8名（経費：1200ドル）

定期的に訪問し、村人との交流を欠かさずに行ってきました。原則的には金銭の支援を行わず、村からの要望を検討し、必要なプロジェクトを具体的に行うことを基本にしてきました。

今回の学校の修復も村からの要請を検討し、エスペランサ村から労働者を雇用、またレダで奉仕に来ている日本の青年達の実践教育も兼ね、上山氏が計画を行いました。学校建設をなした後も常に教師達との交流を欠かさず、教育の向上に必要なことは何かを話し合い、学校の校庭に植樹をし、菜園を作り、教育環境を改善してきました。経済的、物質的な支援とともに信頼関係を作り上げて来たレダスタッフの今までの歩みが効果を上げて来ています。

労働者に衣類を提供

七月中旬、余りの寒さが続いたため（最低気温6°C）、寒さの苦手な労働者達が風邪をひぬよう、急遽、男性にはジャージ上下を、女性には毛糸のベストなどが、全員二十三名に、さやかながら支給され喜ばれました。



写真右||ジャージを手渡す飯野氏と感謝で受け
る労働者。

配り終わった後、支援してくださる方々に感謝して、大きな拍手と「グラシアス！」という声が唱和されました。

（日本の支援者から送られた衣類が現地の方々に喜びを与えています。今後もよろしくお願ひします。）

第10回国際協力青年ボランティア隊出発 (2010年8月25日～9月10日)



七月十四、十五日、国際青年奉仕隊に参加する学生を含め、三十名が参加し、ピースライフセミナーが行われました。奉仕の精神と何かを学び、日本を出發し、発展途上国への奉仕活動への意義を再確認しておきました。今回の奉仕隊を成功させるため、多くの方々の支援が集まりました。支援金を送つてくださった方、切手、はがきで援助して下さった方、文具、衣類を送つてくださった方など、多くの方の暖かい心を胸に抱き、成田から出発しました。スタッフとして心からの感謝をいたします。



第10回国際協力青年奉仕隊隊員名簿

石村聰史（28歳）大阪
池口興樹（21歳）東京
渡辺尚孝（20歳）神奈川
森川修啓（26歳）東京
木口泰孝（21歳）東京
田中国国隆（19歳）東京
藤原周平（22歳）神奈川

富里情美（18歳）群馬
石田佳代（21歳）東京
小舛利奈（23歳）広島
加藤晴香（20歳）神奈川
山上園誉（19歳）鹿児島

隊員数 男子 7名
女子 5名

奉仕はために生きる精神、無償の心で人々の幸せを願う「」です。豊かな日本は発展途上国のため近くしていきましょうと語れる。



レダ開拓の歴史を語り、奉仕精神の大切さを中学生、高校生に話をする柴沼事務局長

南北米福地開発協会 事務局
〒二一三一〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一十五

電話 F a x ○四四一八二九一—二八二一
会費納入 郵便口座 八二九一二八二〇一
一〇一八 ○一七七六八〇四七一
Eメール office@asd-nsa.jp
ホームページ http://www.asd-nsa.jp

南北米、パラグアイ・パンタナール地域へのエコツアーナラビに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

また、会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 員の募集